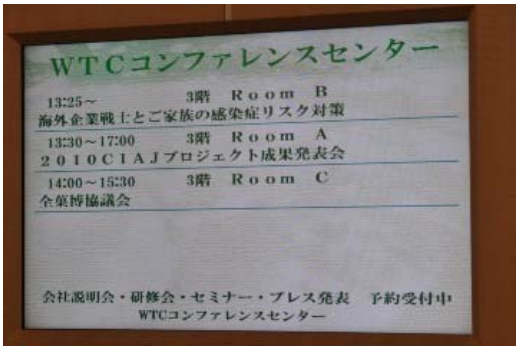
（2011 年 06 月 03 日実施）

第 7 回 JOMF 特別企画セミナー 東京開催のご報告（記事スタイル）

2011年06月03日、浜松町世界貿易センタービル三階の **WTC**コンファレンスセンター **Room B**において第**7**回**JOMF**ミニ・セミナーが開催された。 今回は**『海外企業戦士とご家族の感染症リスク対策 ～恐ろしい狂犬病のリスクから社員やご家族を守る為に～』**と題し、東京医科大学病院の濱田篤郎教授に『海外における感染症の現状とそのリスク対策としてのワクチン接種の意義・必要性』について、都立駒込病院の菅沼明彦先生から具体的感染症対策例として、特に「発症した場合の死亡率が著しく高い」という『狂犬病』について『狂犬病リスクとワクチン接種の必要性』というテーマでお話戴いた。 また、今回**JOMF**初の試みとして、講師の医師二名と会員代表企業から三名が加わり、計5名でのパネル討論会にもチャレンジした。 以下にその概要を主催者とのインタビュー形式で記す。



ビル内各所には電子案内でセミナー情報が掲出され

―今回は初の試みにチャレンジされたようですね？

冒頭挨拶に立つ倉林専務理事

A: はい、 大きく分けると二つありますね。
一つ目は、単独開催ではなく、四者による共同開催です。従来 **JOMF** のセミナーは、単独開催でしたが、今回は、**JOMF** が主催し、後援には一般社団法人 日本在外企業協会（日外協）さん、ノバルティス ファーマ株式会社さん、**RHC USA Corporation** 日本支社さんの三者が加わって戴きました。
二つ目は、基金としては初めての『パネルディスカッション』の場を設けたことです。

―4 者による開催ですか？

A: そうです。 4 者でやることにはメリットもある一方で、気を使わねばならないところも出てきましたが、総じて今回はうまく推進できたのではないでしょうか。 単独開催ですと、自分で企画し、自分で講師や会場を押さえ、下見をし、講師から出てくる資料に目を通して、必要な修正等を加えてもらうよう調整をしたり、当日までに資料の印刷等の準備をし、案内書をメール送信・ニュースレターでも PR をし、更に HP にも情報をアップ、実施直前での参加票送付と同時に参加の確認をしておき、当日は朝から会場に入ってレイアウトを調整したり、機器の確認をするという仕事がたくさんありますが、マイペースで進められるという特徴があります。 一方、複数共催となると、企業文化の異なる関係者間の打合せ等で調整に戸惑うといった若干のデメリットはありますが、仕事を手分けすることが出来るというメリットは大きい。 今回、企画書は基金で起案しましたが、両先生との接点作りはノバルティスさんと RHC さんにお願いしたり、事前に参加者からの『困りごとや疑問』等をお預かりし、これをノバルティスさんが、整理分類してくれたりし、日外協さんには、参加者集めのメール発信や HP での PR もして頂いたことで、大勢の参加者に来て戴けました。 当日の受付業務なども、お願いしたりしまして、とても二人だけではこなしきれなかったのではないかと共同開催の良さも認識することができました。

熱心にプレゼンに聞き入る 42 名のご来場者

―何度も打合せが必要になったようですね？

会場の事前確認、その直後のラップアップミーティング、当日の直前打合せを入れると都合 7 回集まったことになります。 3 月 25 日に初回ミーティングをして当日の 6 月 3 日までの 2 カ月強の間には GW 休みもはいりますので、かなり開催したような気持ちになります。 余談ですが、4 月 11 日と 5 月 20 日には基金で会議をしている際に強い余震に見舞われたりしたので、「このメンバーが集まると地震が来るのでは？」等と話し合っていましたが、当日何事もなく過ぎてホッとしています。

熱心に質問が繰り出される会場風景

―今回は雨には降られず？

A:　あはは、 いい質問ですね。 確かに『JOMF のセミナーは雨模様、それも降れば土砂降り！（It never rains but pours）』と言われて久しいのですが、今回はスタッフの中に『私は晴れ男』と強いオーラが出ていた方が一人いらっしゃったので、どうなるかと思っていたら、本当に晴れ渡っていました。「JOMF の雨神話」が崩れた瞬間ですね。 彼には感謝しています。『テルテル坊主を作ってお待ちしています！』なんていう直前のメールを発信しなくてすみました。
尤も次回 6 月 29 日は、梅雨の季節でもありますし、基金の単独開催ということと併せ考えれば、また雨、それも土砂降りになるのかもしれません。 正直また降られるのでは怖いです。

―参加者数は？

A:　一般参加者が 42 名に四者共同開催の関係上、スタッフが 8 名で総勢 50 名分の座席が満席という感じになりました。　といいましても JOMF のセミナーでは、毎回三名がけのテーブルに 2 名でお座り戴き、ゆったりとした感じで受講戴けるようにだけはしておりますが。。。 今回は、会場での資料に加えて、お持ち帰り用の資料（後援企業の PR 用のものや、筆記具や用箋等も含めて）が多くあった関係上、受講時に使用するものは自分の前に、それ以外の資料については席間の空席部分において戴けて、ちょうどよい感じでした。 ぎゅうぎゅう詰めのレイアウトですと、そういう資料や自分の鞄等を置くところがなくなってしまい、『参加して為になり、参加して楽しい』 の楽しいが不快なセミナーに変わってしまうところでした。
また、通常 36 名以下での開催にしている理由の一つには、学校の教室や大学のゼミの様に講師と聴講者の距離感を縮めたいという思いがあり、結果として今回の Q&A 等でも活発な意見や質問が出る等、彼我の距離感を感じていただけたのではと思っています。

空調は効いていても熱気にあふれた会場でした。

また、偶然なのですが、今回の男女比は女性 21 名、男性 21 名と 50%ずつで、怖そうなテーマの割りには、女性が多くてとても華やかな感じになっていたと思います。
スタッフの我々は、スーツ姿でしたが、会場に来られた方もスーツ姿が多く、少し堅苦しくなるのではとも感じられましたが、上述のように、和気あいあいとし た感じで Q&A もできましたし、驚いたことには、受講中に居眠りをしている方が殆どいなかったです。リフレッシュ体操は不要でした。
現在、国の地震後の電力確保の動きもあるので、次回からはクールビズ、超クールビズでどうぞという案内をしないといけないかもしれないねと反省会の際の話題の一つにも上がりました。 次回の東京新橋でのセミナーでは、これを実施してみようかなとも考えています。

―次回セミナーは 6 月末ですね。

A:　そうです。 もともと 3 月 16 日に予定していた**『高額化する海外医療費への対応セミナー』**が、311 地震の影響で暫時延期とし、4 月 22 日に大阪で先に実施してしまいましたものを 6 月 29 日に実施することに致しました。大阪会場で参加者から出されたご意見やご要望などをもとに、一段とパワーアップした形でプレゼンをしようと、講師のお二方も張り切っていらっしゃいますので、ご期待下さいね。
内容的には、第 6 回と同様です。 プレステージインターナショナル株式会社の中村干城取締役に「海外派遣社員への医療費支援のあり方について」、社会福祉法人鶴風会東京小児療育病院の萩原麻美先生に「歯科医療費について考える・歯科医師の立場からの提言～歯科航空疾患の予防が全身を守る～」というタイトルでお話戴きます。今のところ参加希望者数も順調で、そろそろ募集を打ち止めしないといけないかなと考えています。

楽しいセミナー、を目指していますが
質問者の表情にも笑顔が見られました

―ということは今回の狂犬病のセミナーの大阪エディションはない？

A:　いや、私のボランティアで行っている中国衛生部（日本でいう厚労省）の医療情報の翻訳したものを発信する際に、カバーレターの部分に東京で開催したことについて書いていたら、何人かの人から「それ、大阪でもやってくれますよね？！」というお返事が来てしまいまして、講師の先生にご都合をお伺いしたら、2 カ月の予約が入るので、それ以上先の日程であれば協力して戴けそうでしたので、是非大阪会場での開催にこぎつけたいと思っています。 9 月頃になろうかと思われます。『東京で開催したものを地域

格差是正にむけて大阪の方でもリプレイする』というこれまでのパターンが、 地震で地層がひっくり返ってしまったようです：笑

―感染症全般についてのお話の内容は？

A:　濱田先生の『海外勤務者の感染症とワクチン接種』では、印象に残ったこととして四つあげられますね。

① 途上国に赴く人たちの大半が心配しているのが『感染症』であったこと、

② 海外勤務者への感染症対策は出国前と帰国後の二つのポイントがあること、つまり、

a) 健康教育や予防接種、医薬品の携帯、海外旅行保険への加入指導といった出国前の対策と

b) 帰国後の対策としての診断・早期治療や緊急対応の必要なマラリアや狂犬病リスクへの対応があるということ、

③ 海外の勤務者がダウンしてしまうと事業経営にも影響が出る為、感染症の流行地域に派遣される社員に関する限りは、企業側がその『**安全配慮義務**』に基づいて、ワクチン接種を推奨し、感染症リスクを少しでも低減させる必要があること、

いつも為になる話を楽しく判り易く語って下さる濱田先生

最後に、

④ 感染症対策は、予防接種だけではないということ。つまり、

a) 経口感染の A 型肝炎、旅行者下痢症、腸チフスやコレラ等の対応には『飲食物』に注意する、

b) 蚊媒介のマラリアやデング熱等への対応として『蚊』に刺されぬようにする、

c) 飛沫感染インフルエンザや髄膜炎菌感染症対策には『手洗いとうがい』の励行、

そして、

d) 狂犬病への対応として、『動物にはむやみに近づかない』こと、

に留意することが重要だということが、調査資料等以外にも絵画のお話等を交えてユーモアに富む語り口調でお話しされていました。今回はジェリコーの名画『メデュース号の遭難』を交えての、旅行と病気というお話でしたが、それにしても、ある時は「ベニスに死す」の主人公アッシェンバッハのモデル、マーラーの死因についてのお話を、別の機会には妊娠していた若妻をインフルエンザでなくし、自分も妻の死の直後になくなったという画家エゴン・シーレのお話を、と、いつ聞いても、「どうして先生はこんなに色々なことに造詣が深いのだろう？」と感心しきりです。

余談なのですが、私が高校生の時に UNESCO の関連で夏休み 24 日程をヨーロッパ旅行で費やしましたが、その際、ルーブル美術館を訪問、この『メデュース号の遭難』の絵を見、『モナリザの微笑み』を防弾ガラス等なしの状態でみることができたことを思い出しました。 17 歳の夏の経験なのですが、55 歳の今になっても目に焼きついて離れませんし、あの時の感動も未だ心に残っています。「若い時によいものに触れる、若い時によいセミナーに触れる、、、」共通点があるのかもしれません：笑

―狂犬病の方はどのような内容？

A:　菅沼先生の『狂犬病リスクとワクチン接種の必要性』では、

①狂犬病について、②その感染及び症状について、③問題点について、④受傷後の対応についてという流れでお話が進められました。 ここから私がパネル討論の「クロージング」で使用したものをもとに書きますと、以下のようになります。

①狂犬病の特に多い地域はインドパキスタン、中国、バングラデシュ、フィリピン等に多い病気ですが、米国でも年に数人が発症している世界各地に常住をしている病気であること、

②咬まれてから発症するまでの潜伏期間は数週間～数カ月だが、稀に数年以上たって発病することがあり、一旦発症してしまうと致死的な脳症をきたし、『ほぼ 100%（毎年数千人以上が犠牲になっており、これまでに報告された生存者数は一ケタしかいない）』が死亡するということ、

狂犬病についてしっかりと、熱く語る菅沼先生。

③動物にかまれた直後の対応等も重要だが、何よりも予防が重要であるということであり、むやみに動物に近寄らない、可愛いからと言って手や足を出さない、とくに頭に近い部分を咬まれて発症するとほぼ助からないので、注意が必要だということ、

について、疫学上、臨床上、予防上の観点からお話が進められました。

特に、ある一枚のスライドで、『この女児は、世界で 6 番目に助かって生き延びた子供です』という紹介がありましたが、インドでは一万人以上が発症して亡くなっていたこともあり、これまでの累計発症者数はどのくらいになるのか、想像もつきませんし、その中で、生存できたのが両手の指で足りる程しかいないというこの事実は重いなと感じました。

―パネル討論については？

A: パネラー出演へのお願い、シナリオ作成等、とにかく初の試みであったことから、苦労も多かったですが、日本航空インターナショナルの牧信子先生、スター精密看護師の相摸年恵さんに、全面的にご協力して戴けました。 パネラーとしての役柄引き受けや、その後の進行シナリオの確認などの面で非常に助かりました。 基金の澤田課長もこれまでの経験をもとに、パネラーとして加わってくれたので、男性陣三名（宮本含む）と女性陣三名の討論会みたいになり、あっという間に予定の時間が終わってしまいました。

パネル討論（男性人）：左から宮本（モデレータ）、菅沼先生、濱田先生（パネリスト）の順

パネル討論（女性陣）：左から牧信子先生（日本航空インターナショナル）、相摸年恵看護師（スター精密））、澤田課長（JOMF）の順 （右端はノバルティスファーマの嘉山部長）

会員企業からの質問（悩み事含む）を事前に受けていましたし、その情報をノバルティスの森さんが分類整理してくれましたので、講師の先生方に送付することができました。
その為、かなりの部分については、両先生がプレゼンテーションの中で回答をして戴けました。
が、パネラーの方たちから「当日参加者の困りごと」などについて再び話題にして戴いたり、ご自身の疑問などについての紹介を戴いたりすることができました。
スタッフメンバーの反省会（次回セミナーを少しでも改善する為に、セミナーの後に有志で集まることも多いのですが、今回は当日実施しました）の場でもモデレータ役の私の不手際（パネラーの話す予定部分をうっかり先にしゃべってしまい、「私の担当部分を宮本さんが先に話してしまいましたね！」とディスカッションの中で指摘されました・・）の話題とともに、出席したパネラーのみなさんからも『今回、パネル討論ができて良かった』ね』という結論（内部での評価ですので少し身贔屓になっているかもしれません）が出て参りました。

パネル討論（場外編）：
講師の菅沼先生に講師の濱田先生から菅沼先生に対してのご質問が飛び出しました。

毎回パネルディスカッションをするのは、マンパワー的に不可能かもしれませんが、一昨年、「パネル討論にトライしてみたい」ということを事業計画の中に盛り込んだ私としては、これで、少しノウハウも溜まったかなと考えていますので、今後も折をみて、パネル討論会の場を設けるようにしたいと思います。
今月は月初の 3 日と月末の 29 日にセミナーがあり、テーマも異なるので、パワーが要りますが、何とか会員企業の皆様の満足度向上に向けて頑張りたいと思います。

―インタビューは以上です、ご協力ありがとうございました

A: いえいえ、こちらこそありがとうございます。

（JOMF ニュースレター編集部）